

学校教育目標	「自分でできる(自主) みんなとできる(協働)」～主体的に学び、温かい人間関係を育む子どもの育成～					
	○自ら学び、互いに高め合い、「知」を構築する力を育みます。(知) ○礼儀や規範意識を大切に、他者を思いやる豊かな心を育みます。(徳) ○自他の命を尊重し、心身ともに健やかな子どもを育みます。(体) ○地域を大切に、社会の一員として協働する姿勢を育みます。(公) ○コミュニケーションを大切に、様々な変化に柔軟に対応できる力を育みます。(開)					
学校概要	創立 147 周年	学校長	佐藤 正淳	副校長	飯塚 英恵	2 学期制 一般学級: 20 個別支援学級: 5
児童生徒数: 684 人 主な関係校: 山内中学校 中川西中学校 あざみ野中学校						

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	山内中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
コミュニケーション能力 自分づくり能力	山内中学校 山内小学校 新石川小学校 元石川小学校 美しが丘西小学校	○思いやりや感謝の気持ちを持ち、互いに尊重し合って生活できる子ども ○豊かに学び合い、社会の一員として自ら判断し、責任をもって行動できる子ども 「主体的な学びができる子どもを育てるための手立て・工夫」を取組目標に設定し、ブロック授業研等を通して情報共有をする。 ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の授業を積極的に参観する。

中期取組目標	◆「チーム指導」と「組織的対応」で児童・保護者・地域から信頼される学校を目指します◆
	・「わかる授業づくり」に取組み、「思考ツール」を活用するなどしながら、学力の向上を図ります。 ・「山内小スタンダード/マナーブック」による指導やあいさつ運動を通して規範意識を高め、誰もが安心して通える学校づくりを進めます。 ・学級の壁を越えたチーム指導を行います。教科分担任制や交換授業、横割り授業を取り入れた教育活動を展開します。 ・「教職員の元気が子どもの笑顔をつくる」という視点で働き方改革を進めます。 ・「Y-NEXT」を打ち出し、学校での学びを社会や自らの将来につなぐことができるよう、企業等と連携した取組を進めます。 ・SDGsの視点から、学校教育と世界をつなぐ視野を広げ、子どもたちの意識を高めます。 ・withコロナの新たな生活様式の視点で、様々な取組を見直し、安心安全とともに学習保障に努めます。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学年で学習内容等を共通理解し、専科や教科担任制の取組により、指導をそろえる。②自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の話をしっかり聞いたりするための活動を充実させる。③学習内容のつながりや他教科との関連を意識して指導することで、理解を深める。
担当 プロジェクト 知	
豊かな心	①道徳の授業を通して豊かな心の育成を図りながら、児童の自尊感情を高めるとともに、受容的な学級、学校づくりを進める。②マナーブックを用いて、学校や社会の一員としてだれもが気持ちよく過ごすためにふさわしい行動や規範意識について継続的に指導する。③児童の発達段階に応じ、計画的に、そろえた指導を行う。
担当 プロジェクト 徳	
健やかな体	①リズムジャンプ等の活動を通して、校庭の使用が制限されている中でも体を動かす機会を確保し、けがの防止につなげる。②学校保健委員会での取り組みとリンクさせ、感染防止のための知識や行動を子どもたちと考える。③ソーシャルディスタンスを考慮した運動や短時間で効果的な運動を考え、全校での取り組みをしていく。
担当 プロジェクト 体	
特別支援教育	①特別支援教室実践推進校として、特別支援教室利用児童と自学級をつなげるための支援体制を整えていくとともに、安心できる場としての特別支援教室内の環境整備を行う。また、それぞれの特性に応じた、支援の方法や合理的配慮のより深い理解につなげるための職員研修を行う。引き続き保護者や関係機関との連携を図り、支援体制の強化を目指していく。②山内スタンダードの徹底感染症ガイドラインを通して、特別支援教育の面においても全職員が統一した指導を行えるようにする。
担当 プロジェクト 徳	
児童指導	①あったかハートな学校風土にするために、YPアセスメント等を活用した支援検討会を通して、関わる教職員が児童理解や学級の実態を共通に理解する。横浜プログラムを継続的に実施し、社会的スキルの育成を図る。②いじめや暴力等の行動に組織的に対応し、その後の見守りも複数の目で行う。③感染防止対策をしながら安全に学校生活が送れるようガイドラインを作成し、児童保護者職員で共通理解し同じ意識のもと指導にあたる。
担当 プロジェクト 徳	
地域連携	①地域学校協働本部の活動を軸に地域コーディネーター等と連携を図りながら、地域に根差した学習材や人材の開発を推進し、まちを愛し社会とつながって生きる子どもの育成をはかる。②学校だよりや学校ホームページ、WEBアンケート等、開かれた情報発信と集約のあり方について改革を進め、保護者や地域の信頼と協力に支えられた教育活動を展開する。
担当 プロジェクト 徳	
未来を開く志	①SDGsが示す17のゴールと学校教育活動を関連付け、社会とのつながりを実感できる学習を行う。②オンラインの活用、学校地域コーディネーター等の活用から、外部機関や地域が世界とつながり、未来をつくる活動をしていることに目を向けさせる。
担当 プロジェクト 開	
働き方改革	①教職員一人ひとりの勤務時間に関する意識を高め、時間外勤務の削減を目指す。②教育の質を落とさずに、コロナ禍の状況下における業務改善を推進していく。③IT機器を積極的に活用し、在宅で行える業務の推進を行う。
担当 教務部	
いじめへの対応	①YPアセスメントを実施し児童理解を深め、指導プログラムを計画的に行う。②定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。③いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くすることでいじめを見逃さない体制づくりをする。④定期的な児童いじめ防止委員会を開催することで、児童、教職員、保護者、地域、各関係機関がいじめについて考える時間を確保し、いじめを許さないという雰囲気を作る。⑤年2回の児童アンケートを実施し、内容を共通理解することで、組織として児童の些細な変化を見逃さない体制をつくる。⑥あったかハートデーを活用して、いじめを未然に防ぐクラスの雰囲気をつくる。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営	①メンターチームでの授業実践及び校内研修を定期的に行い、教師としての力量を高める。②校務分掌にかかわる組織を適材適所で生かし、ボトムアップでからの検討、発信を推進する。③コロナ対応にかかわる情報や対応を共有し、全教職員一丸となった組織的に対応を行う。
担当 教務部	